

金沢区全域の計画

1 金沢区のまちづくりの特徴

金沢区は、少子・高齢化や地球温暖化などの社会的課題に対応するため、地域・企業・大学などとも協働して、「金沢の魅力」、「子育て」、「健康」、「防災」などの取組を進め、誰もが「つながり」を実感できる、安全で安心して健やかに住み続けられる、魅力あふれるまち、「環境未来都市」を目指しています。

人々の暮らしの場である地域における生活課題は福祉や保健の分野に限定されるものではなく、防災や道路整備などのまちづくりの課題とも密接に関連しています。そこで金沢区では、「地域福祉保健計画」と「都市計画マスタープラン金沢区プラン」とで基本目標を共有し、まちの活性化、安全・安心の確保、自然との共生などを踏まえながら、**安心して暮らし続けることができるまち**の実現を目指します。

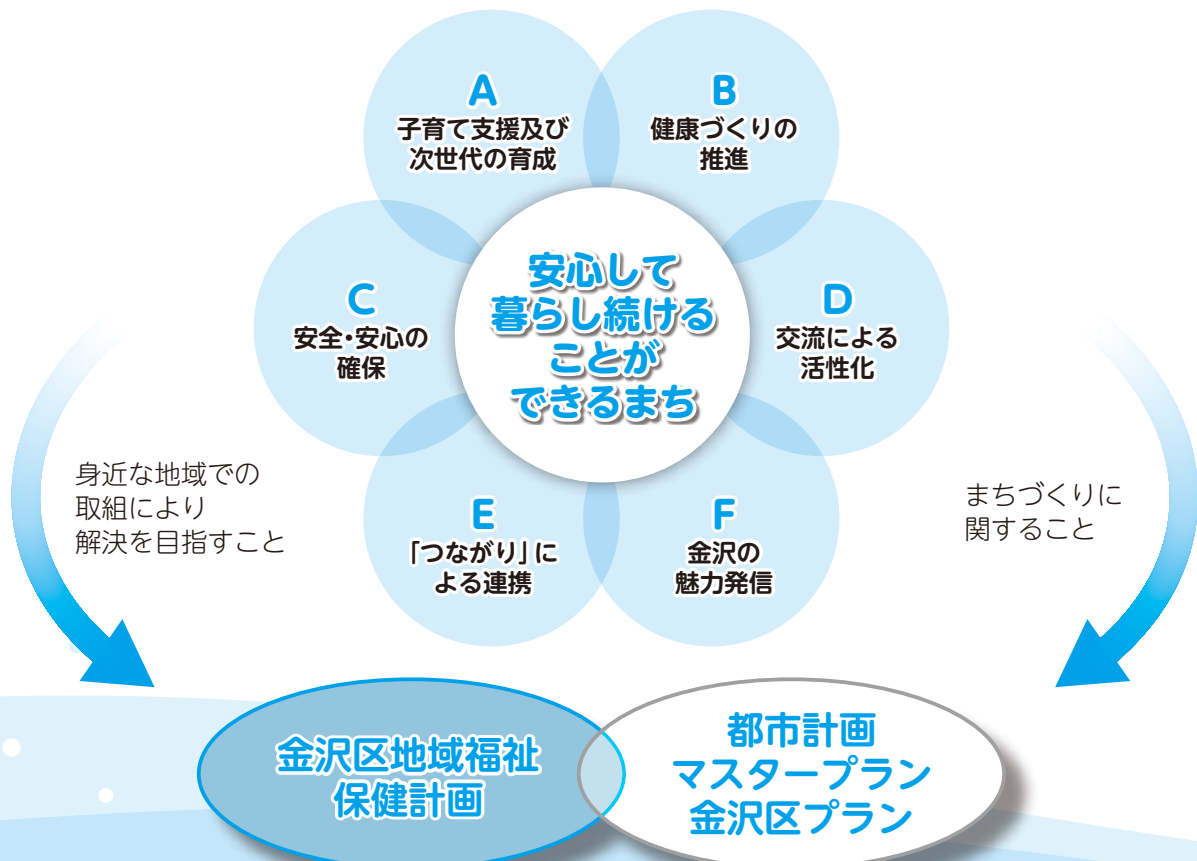
この基本目標の実現に向けて、AからFまで6項目の視点を踏まえて、「身近な地域での取組により解決を目指すこと」については地域福祉保健計画、「まちづくりに関すること」については、都市計画マスタープラン金沢区プランに反映します。

金沢区では、中長期的な観点で2つの計画を連動させたまちづくりを進めていきます。

金沢区基本目標

「環境未来都市 金沢を目指して」

目標実現に向けた視点



2

第3期金沢区地域福祉保健計画の構成

第3期金沢区地域福祉保健計画の理念は、第2期計画の理念「安心して暮らせる支えあいのまちづくり」を継承しつつ、誰もが住み慣れた地域で健やかに住み続けられるまちづくりを目指すという意味を含めたものとなりました。

さらに、暮らしや地域に関する意識調査の結果や社会状況の変化及び地区推進連絡会(第5章4 用語解説参照)での意見等を踏まえて課題の把握・整理を行い、重点テーマと推進目標を設定しました。区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザの3者は、相互に連携しながら推進目標の実現に向けた取組を進めていきます。

理 念

誰もが安心して 健やかに住み続けられる 支えあいのまちづくり

背 景

暮らしを取り巻く
状況の変化

生活課題や
ニーズ把握

地域住民との
意見交換

重 点 テ ー マ

I

身近な知りあいを増やし
安心の輪を拡大

推進目標

- 1-(1)多世代が知りあう場づくり
- 1-(2)日常生活の中で多様な見守りや助けあいを推進する仕組みづくり

II

みんなで健康づくりに
取り組み
いきいきとしたまちへ

推進目標

- 2 みんなで取り組む楽しい活動をととした健康づくり

III

『得意』や『経験』をいかして
わたしもあなたも
地域も元気に

推進目標

- 3 誰もが活躍できる場やきっかけを通じたいきいきと暮らせる地域づくり

推進目標の達成に向けた取組を年度ごとに計画・推進



3 重点テーマと推進目標

重点テーマ

I

身近な知りあいを増やし 安心の輪を拡大

「困った時となり近所に相談したり助けあっている人」が少なくなっていますが、いざという時に助けあうためには日頃から身近な知りあいを増やすことができる場に参加するなど、顔の見える関係を築いていることが大切です。

また、高齢化の急速な進展や家族形態の変化、近隣関係の希薄化などによって、孤立しがちな人が増えてくることが予測されます。そこで、住み慣れた地域で安心して生活をするためには、介護や医療などが切れ目なく提供される仕組みづくりとともに、身近な地域における多様な見守りや支えあいが不可欠です。

さらに、障害のある人や子育て中の人などに対する日常生活の中での温かい声かけや気配りなどにより安心の輪を広げていくことも求められています。

背景① 支えあいの第一歩は身近な知りあいを増やすこと

隣近所とのつきあい方に関して、「困った時に相談したり助け合ったりする」という人が少なくなっています(図1)。一方で、災害時に地域で助けあうために日頃から「顔の見える関係づくり」が必要かとの問いに9割以上の方が必要と回答しています(図2)。

また、7割以上の方は、知人が困っているときには「自分が可能な範囲で手助けする」と回答しています(図3)。

図1 隣近所とのつきあい方

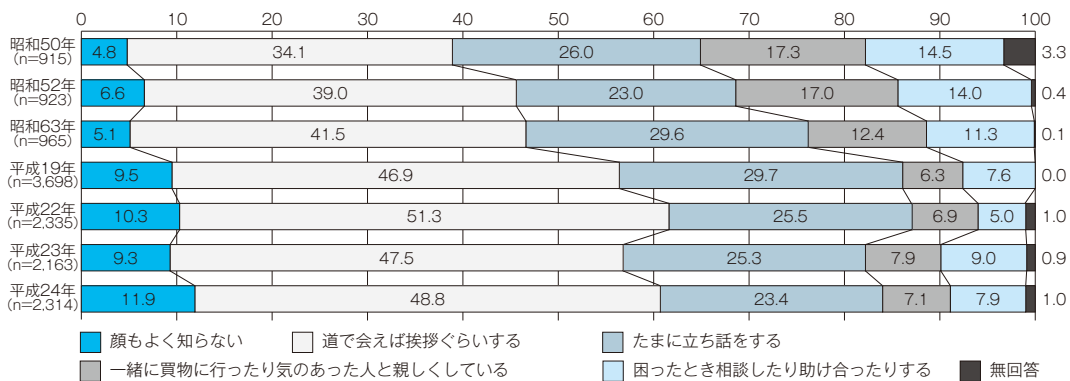


図2 災害時に地域で助けあうために日頃から顔の見える関係づくりが必要か

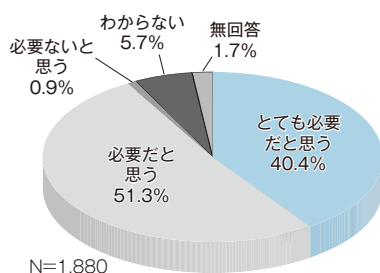
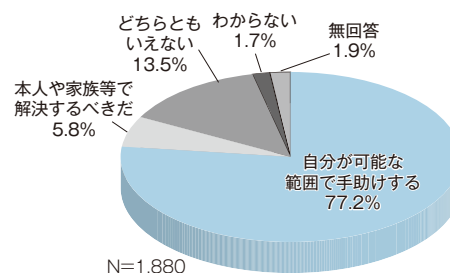


図3 知人が困っているとき



出典)平成26年度金沢区暮らしや地域に関する意識調査(一般区民)

背景② 乳幼児の子育て中の孤立感

平成22年と26年の金沢区子育て実態調査の結果を比較すると子育てについて孤立を感じている人の割合に大きな変化はなく、約4人に1人が孤立を感じていました(図4)。

どんな時に孤立を感じるかという問いに対しては、家庭内では子どもと二人きり、家庭の外では母同士の集まりの中に入っていけない時が多いということが分かりました(図5)。

図4 孤立を感じることもあるか

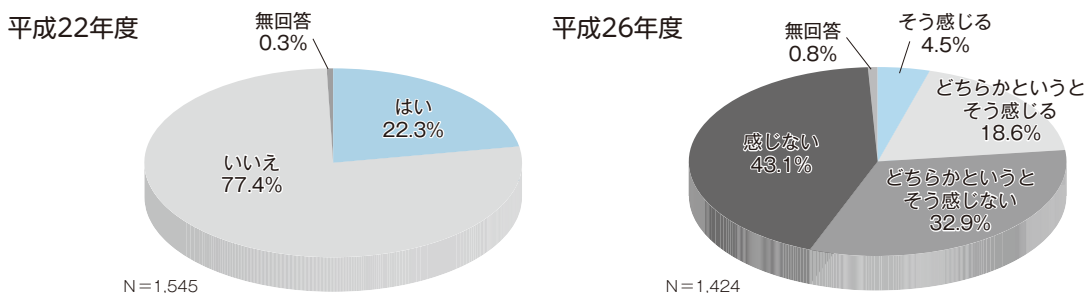
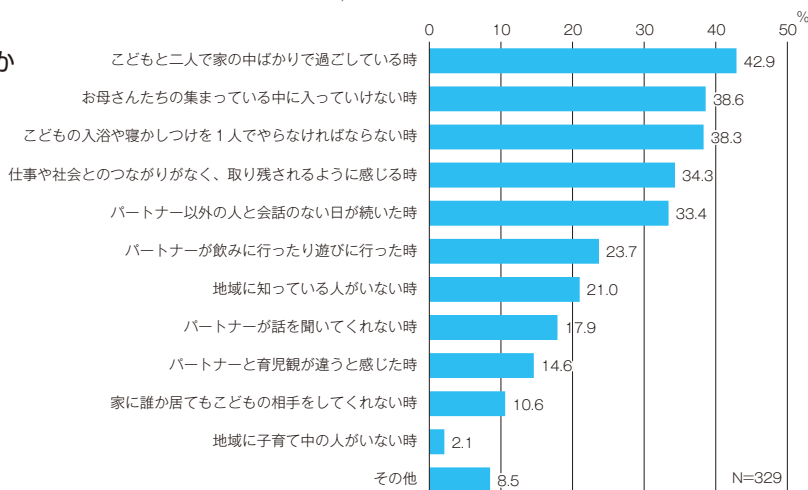


図5 どんな時に孤立を感じるか



出典)平成26年度金沢区子育て実態調査

背景③ 「地域のつながり」に関する地区推進連絡会での主な意見(抜粋)

【課題】

- マンションでは、名前と顔が一致しないことがある
- 仲間づくりは様々進んでいるが、後から入りにくいという問題がある

【今後の方向】

- 「顔が見える関係」づくりには地域が時間をかけて、あいさつ・声かけなどをとおして地域と子どもたちとのつながりを持つことが大切
- 自治会とサークル、サークルどうしなどの交流を進める



背景④

人口構成の変化と高齢化の急速な進行

金沢区には、平成27年3月末時点で202,797人が暮らしています。世帯数は90,900世帯、平均世帯規模は2.23人/世帯です(表1)。

高齢化率(全人口に占める65歳以上の人の割合)は26.4%となっており、今後も高齢化が進んでいくことが見込まれています。

表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	実数			増減		平成27年 比率	平成27年 市平均
	平成17年	平成22年	平成27年	17~22年	22~27年		
人口 (人)	209,966	209,560	202,797	▲406	▲6,763	100.0%	100.0%
0~14歳人口 (人)	27,769	27,180	24,684	▲589	▲2,496	12.2%	12.9%
(内0~5歳) (人)	(10,680)	(10,211)	(8,956)	(▲469)	(▲1,255)	(4.4%)	(5.0%)
15~64歳人口 (人)	145,284	137,283	124,538	▲8,001	▲12,745	61.4%	64.2%
(内25~39歳) (人)	(46,562)	(42,612)	(33,948)	(▲3,950)	(▲8,664)	(16.7%)	(19.3%)
65歳以上人口 (人)	36,913	45,097	53,575	8,184	8,478	26.4%	22.8%
(内75歳以上) (人)	(15,450)	(19,876)	(24,228)	(4,426)	(4,352)	(11.9%)	(10.5%)
世帯数 (世帯)	86,310	90,330	90,900	4,020	570		
平均世帯規模 (人/世帯)	2.43	2.32	2.23				2.15

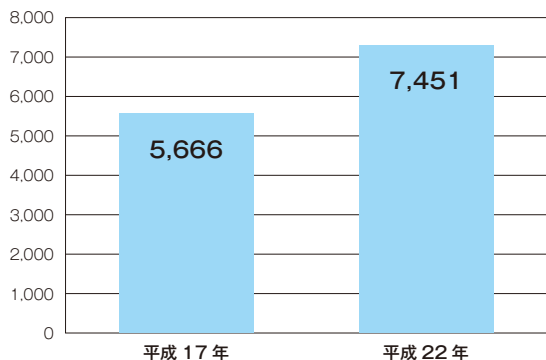
出典) 横浜市統計ポータルサイト「町別世帯と人口」「町別男女別年齢別人口」による(各年3月末現在の住民基本台帳記載人口)

背景⑤

高齢者単身世帯数と要介護認定者数の増加

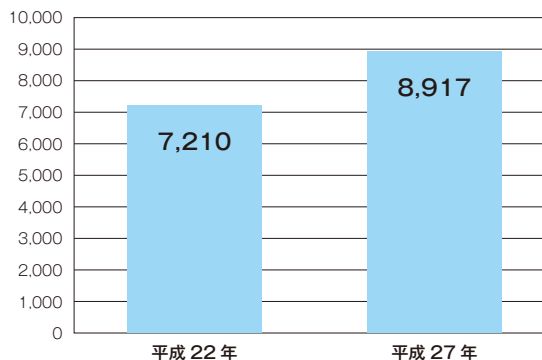
高齢化の進行や家族形態の変化に伴い、地域において高齢者が単身で暮らしている世帯数や要介護状態にある人の数が大きく増加しています(図6・7)。また、厚生労働省の調査によると、65歳以上の高齢者の15%に認知症が発症するというデータもあります。こうした中で、在宅医療の提供や介護との一層の連携を進めることなどにより、できる限り住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを実現できる社会の仕組みを構築していく必要があります。

図6 高齢者単身世帯数(金沢区内)



出典) 平成17年度及び平成22年度国勢調査

図7 要介護認定者数(金沢区内)



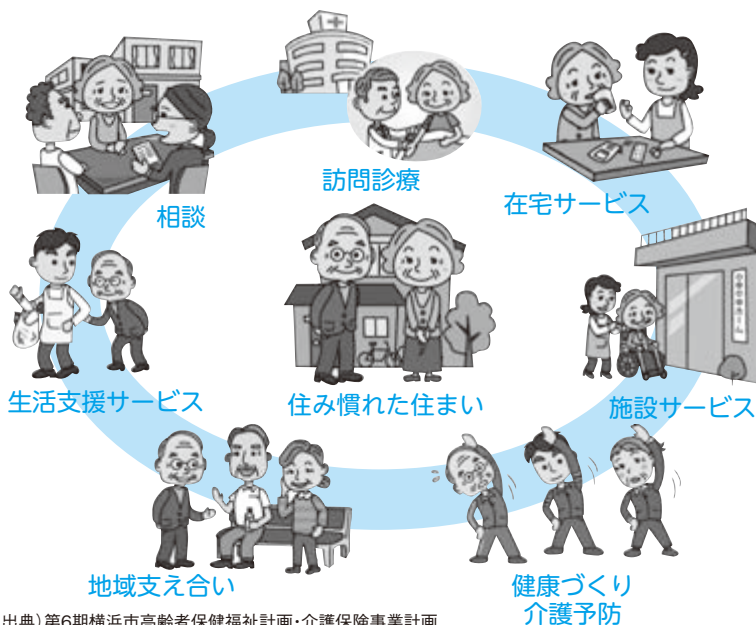
出典) 横浜市ホームページ「介護保険実施状況」(数値はいずれも3月末現在)

背景⑥ 地域包括ケアシステムの構築

平成37年(2025年)には「団塊の世代」が75歳以上になり、家族形態の変化とあわせて、高齢者の単身世帯や高齢夫婦のみの世帯の増加が見込まれています。さらに近隣関係の希薄化により、困ったときに身近に相談できる人がいないなど、社会的に孤立しがちな人が増えてくることが予測されます。

こうしたことから、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくことを支えるために、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの構築に早急に取り組むことが不可欠です。

さらに、市民一人ひとりが健康づくりや介護予防に取り組み、地域活動や社会参加を通じて健康を維持し健康寿命(P.18参照)を延ばすことも求められています。



出典) 第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

背景⑦ 障害の有無に関わらず住み慣れた地域で暮らし続けるために

金沢区で暮らしている障害者を対象とした調査では、79%が金沢区に「住み続けたい」「できれば住み続けたい」という回答でした(図8)。

障害児・者とその家族からの意見の中には、『「障害」の個別性を理解してほしい』『どんな支援が必要かは深く関わらないと分からないと思う』という意見がある一方で、「困った時に、『大丈夫ですか』という一声があると、気にしてもらえてありがたいと感じる」「外出をするのにサポートをしてくれる人がいると助かる」という意見がありました。

特に災害時に地域で助けあうために、日頃から顔の見える関係づくりの必要性について、95%の人が「とても必要だと思う」または「必要だと思う」と回答しています(図9)。

図8 金沢区への定住意向(障害当事者団体)

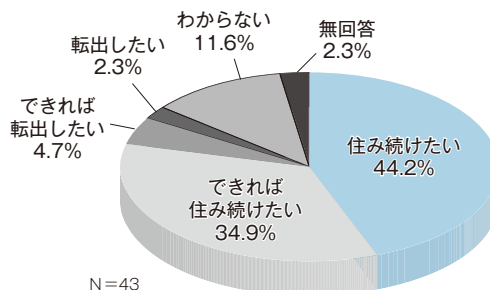
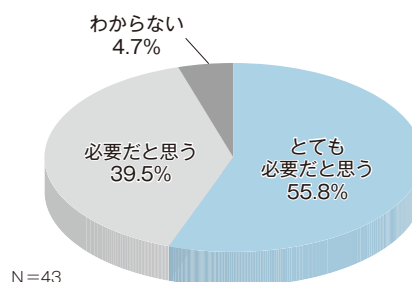


図9 災害時に地域で助けあうために日頃から顔の見える関係づくりが必要か(障害当事者団体)



出典) 平成26年度金沢区暮らしや地域に関する意識調査(障害当事者団体)

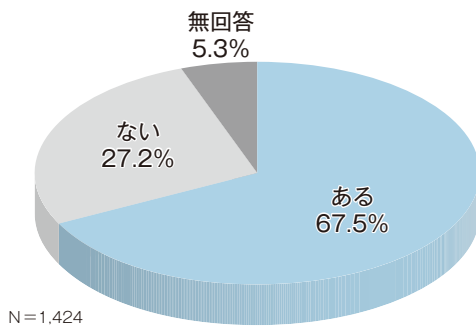


背景⑧ 温かいまなざしの見守り・支えあいで安心して子育てできる地域づくり

子育て中の養育者を対象とした調査では、多くの養育者は、近所や通りすがりの人との挨拶や子どもへの声かけがうれしいと感じていることが分かりました(図10)。

また、うれしかった声かけとして「いつもの何気ないあいさつや笑顔がうれしい」「『かわいい』、『がんばっているね』などの声かけ」などが挙げられており、養育者も地域との関わりを望んでいることが分かりました。

図10 近所や通りすがりの人の声で助かったことやうれしかったことの有無



出典)平成26年度金沢区子育て実態調査

【養育者の主な回答(一部抜粋)】

- 「今は大変だけど、一番かわいいときだから頑張ってるね」などの声かけ
- 「手伝ってほしいことがあったら言ってね」などの気遣いの言葉
- 子どもがよく泣いて申し訳ないときに「子どもは泣くのが仕事だからがまんさせないであげて、気にしないで」と言ってくれたとき
- 子どもの名前を覚えてくれて、声をかけてくれるとき



目指す姿と取組の方向性

特定の世代や専門分野に限らず、となり近所や趣味のつながり等をとおして交流のある地域を目指し、こどもから大人、高齢者まで多世代が知りあうことのできる事業や、地域の団体、関係機関と連携した取組を推進し、地域資源を共有しながら、交流の機会を創出します。

また、地域で行う新たな「つながり」づくりの取組を支援します。

目標達成に向けた取組

①情報の周知

- 地域のイベント情報を収集・発信します。
- 必要な人に情報が届く効果的な広報を進めます。

②身近な地域で参加できる交流の機会と場づくり

- 共通の趣味や目的を通じて人と人が知りあえる場を増やします。
- 世代や文化を超えて楽しみながら参加できる交流の機会を増やします。

③地域の人材や資源の共有

- 活動者や団体どうしの連携を促進します。
- 身近な施設等の有効活用や、誰もが集える場づくりを進めます。



推進目標 1 - (1) に関連する取組や制度

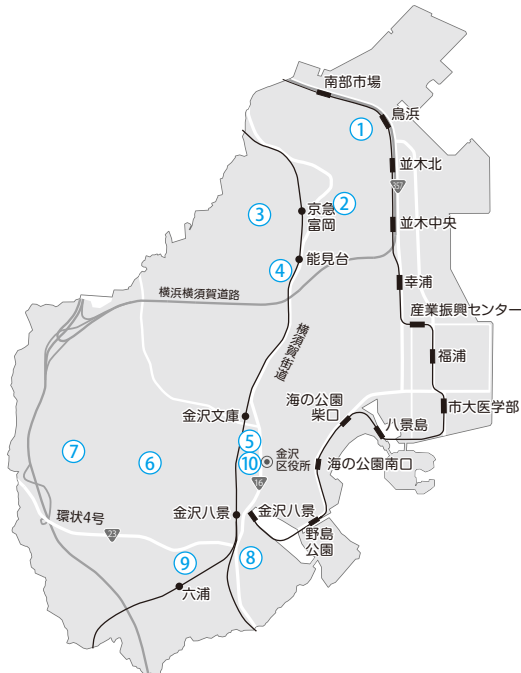
● 地域で参加できる交流の場

○ 地域ケアプラザ

福祉・保健の活動拠点として、未就園児の親子向けのひろばや体操教室、料理教室、障害のある子ども達を対象とした事業などを開催しています。また、福祉保健活動を目的とした団体向けに貸し出しできる部屋があります。

○ 福祉保健活動拠点

団体交流室、対面朗読室、録音室、点字製作室のほか地域ケアプラザとの共有スペースである多目的ホール・研修室、ボランティアコーナーがあり、区内で自主的に福祉保健活動を行っている団体等が利用できます。



親子で楽しめる
ひろばの開催



男の料理教室

番号	施設名	住所	電話	FAX
①	並木地域ケアプラザ	富岡東2-5-31	775-0707	775-0877
②	富岡東地域ケアプラザ	富岡東4-13-3	776-2030	770-5010
③	富岡地域ケアプラザ	富岡西7-16-1	771-2301	771-2360
④	能見台地域ケアプラザ	能見台東2-1	787-0991	787-0993
⑤	泥亀地域ケアプラザ	泥亀1-21-5	782-2940	782-2959
⑥	釜利谷地域ケアプラザ	釜利谷南2-8-1	788-2901	788-2906
⑦	西金沢地域ケアプラザ	釜利谷南3-22-3	788-2228	780-3080
⑧	柳町地域ケアプラザ	柳町1-4	790-5225	790-5227
⑨	六浦地域ケアプラザ	六浦5-20-2	786-8801	786-8802
⑩	金沢区福祉保健活動拠点	泥亀1-21-5	788-6080	784-9011

○ 保育園を活用した育児支援 区役所・保育園

地域の親子の交流や、在園児との交流の場として開放しています。また、育児相談などの支援に加えて、「赤ちゃんの駅」として授乳やおむつ替えの場を提供しています。



● 地域活動の情報発信 区役所

「金沢区民活動センター“ゆめかもん”」では、市民活動に関する相談・コーディネートや情報提供をするとともに、活動場所の提供や機材の貸出、講座や交流イベントの開催等により区民の活動を支援しています。

また、「さくら茶屋にししば」と「コミュニティサロン『ほっこり』」は「つながりステーション」として、これまで築いてきたつながりや蓄積してきたノウハウを活かした、より身近な活動支援拠点となっています。

名 称	住 所	電 話
金沢区民活動センター“ゆめかもん”	泥亀2-9-1	788-7803
さくら茶屋にししば	西柴3-17-6	516-8560
コミュニティサロン『ほっこり』	東朝比奈2-2-32	786-3736

● 活動への支援 区役所・区社会福祉協議会

金沢区では、幅広い区民の主体的な活動や身近な地域の場づくりを支援できるよう、各種制度を運用しています。

名 称	内 容	お問合せ先
地域ネットワーク支援事業補助金	地域課題の解決に向け、地域の団体が連携して取り組む事業に対し、支援をします	地域振興課 電話 788-7809
空き家等を活用した地域の「茶の間」支援事業	空き家や空き店舗等を活用し、多世代交流、子育て支援、高齢者の生活支援などの取組を支援します	
金沢区市民活動サポート補助金	区内で市民公益活動を行う市民活動団体を支援し、その成長と自立を図ります	地域振興課 電話 788-7806
安心子育て・育児サークル支援事業	金沢区内で活動する養育者による育児サークルを支援します	こども家庭支援課 電話 788-7785
金沢区福祉保健活動促進補助金	金沢区地域福祉保健計画を推進する活動団体を支援します	福祉保健課 電話 788-7824
いきいき金沢助成金	区民の自発性のもと、金沢区内で行われるボランティア活動、非営利な地域福祉・障害福祉を推進する事業を支援します	金沢区 社会福祉協議会 電話 788-6080

この他、市内全域を対象とした制度等については、「支援制度ガイドブック」でも紹介しています。

横浜市支援制度ガイドブック 検索



推進目標

1 - (2)

日常生活の中での多様な見守りや 助けあいを推進する仕組みづくり

目指す姿と取組の方向性

安心して子どもを育てることができ、介護が必要になっても障害のある人でも安心して暮らせる地域を目指し、地域全体で子どもを育む風土を醸成します。

また、各種事業や様々なネットワークから認知症の人や障害のある人など見守りが必要な人を発見し、身近な地域の中で助けあえる仕組みをつくとともに、お互いに困っていることに気がつけるよう啓発活動を行います。

また、災害発生時を念頭においた対策や、孤立しがちな人への対応及び医療的ケアが必要になっても安心して在宅生活を継続できるような取組を進めていきます。



ガイドボランティアによる
通学支援

目標達成に向けた取組

①理解・啓発活動の推進

- 障害のある人や認知症の人などの課題や、外国につながる人で言葉や生活習慣の違いなどからくる課題について理解を進める啓発活動を推進します。
- 研修会等（認知症サポーター養成講座、ガイドボランティア養成講座など）をとおして、具体的な見守り方法についての知識と理解を広げます。

②見守りの輪を拡大

- 親子が集える場をとおして、養育者の育児不安の軽減を図ります。
- 認知症サポーター、はいかい高齢者SOSネットワーク等の活動をとおして、認知症の人とその家族の生活を支援します。
- 障害児・者の登下校や通所時の見守り、スポーツ等による交流をとおして、顔の見える関係づくりを推進します。
- 大きな災害に備えた地域の助けあいの取組を支援します。
- 子どもの見守りや防犯活動への支援をとおして、犯罪のない明るい社会づくりに取り組みます。

③相談機能の充実と支えあいネットワークの構築

- サロンを実施している団体や関係機関との意見交換の場を設けます。
- 支援を必要としている人が孤立しないように、相談につながる体制と関係機関のネットワークを強化します。
- ネットワークで把握した課題の解決に向けて関係機関で協働して取り組みます。

推進目標 1 - (2) に関連する取組や制度

● 支援が必要な人への理解

○福祉教育の推進 **区社会福祉協議会**

誰でも安心して住み慣れた地域で生活が続けられるように地域・学校・企業等を対象とした福祉教育を進めています。福祉教育のプログラムとして、認知症や障害等に関する理解と協力の輪を広げることを目的とした各種講座の開催を支援しています。

○認知症サポーター養成講座 **区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ**

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲でそっと手助けする応援者です。講師役の「認知症キャラバン・メイト」が開催する「認知症サポーター養成講座」を受講することでサポーターになることができます。金沢区では、約9,200人(平成27年11月時点)のサポーターがいます。引き続き、こどもから高齢者まで様々な機会を通じて、認知症サポーターの養成を進めていきます。

○金沢国際交流ラウンジ **区役所**

外国につながる人との共生を図ることを目的として、①情報提供・相談対応、②日本語学習支援、③多文化共生・国際交流・地域理解を推進するためのイベントなどを行っています。

● 子育て中の養育者をサポート

○こんにちは赤ちゃん訪問 **区役所**

生後4か月までの赤ちゃんのいるすべての家庭を、民生委員児童委員、主任児童委員等の地域の訪問員が訪問し、玄関先などで出産後に利用できるサービスや地域の子育て情報などをお届けします。

○子育てサポートシステム **金沢区地域子育て支援拠点 とことこ**

子どもを預かってほしい人(利用会員)と子どもを預かる人(提供会員)に会員登録をしていただき、条件の合う近隣の方との出会いをサポートする有償の支えあい活動です。

○メールマガジン「キラキラかなざわっこメール」 **金沢区地域子育て支援拠点 とことこ**

区内のイベントやお出かけ情報等の子育て情報をメールでお届けします。

登録用メールアドレス kira@baykids.jp

(空メールを送信)





推進目標 1 - (2) に関連する取組や制度

○「かなざわ育なび. net」 区役所

乳幼児健診や保育園・幼稚園の一時保育、赤ちゃんの駅、お出かけスポット、イベント等の金沢区の子育てに関する情報を集約して、居住地やお子さんの年齢に応じて提供するポータルサイトです。



パソコン:

URL: <http://kirakana.city.yokohama.lg.jp/>

スマートフォンアプリ: Android版



iOS版



● 福祉保健に関する相談場所

地域ケアプラザ	地域の身近な相談窓口として、こどもから高齢者、障害児・者の福祉・保健の相談を受けて、内容に応じて必要な情報提供や支援につながります。	連絡先については、 P.11参照	
金沢区地域 子育て支援拠点 とことこ	子育て中の親子の交流の場、子育てに関する悩みや心配事があれば、気軽にスタッフに相談できる場です。	能見台東 5-6	電話 780-3205 FAX 780-3206
金沢区基幹相談 支援センター (金沢地域活動ホーム りんごの森)	地域で生活する障害のある人や家族の生活を支えるための総合窓口として必要な情報提供や支援につながります。	能見台東 2-4 (1階)	電話 784-2709 FAX 784-2758
金沢区 生活支援センター 愛&あい	こころの病のある人や家族などが自分らしい生活を送れるよう、精神保健福祉の相談や日常生活のための場の提供を行っています。	泥亀 2-1-7	電話・FAX 701-4116

● 認知症、障害のある人への対応

○はいかい高齢者SOSネットワーク 区役所・地域ケアプラザ

認知症高齢者が徘徊で行方不明になった時に、区役所と警察、地域ケアプラザや公共交通機関等と一緒に、できるだけ早く発見・保護する仕組みです。

万が一に備えて、早期発見に必要な情報や写真を事前に登録することができます。

○障害者自立生活アシスタント事業

金沢地域活動ホームりんごの森・金沢区生活支援センター愛&あい

単身等で生活する障害者が地域生活を継続するために、専門的知識と経験を有する「自立生活アシスタント」が、具体的な生活の場面での助言やコミュニケーション支援を行います。

○横浜市障害者後見の支援制度

親亡き後も、障害者本人が願う地域での生活方法を一緒に考え、日常生活を見守ります。登録後、あんしんサポーターが定期的に訪問して話を聞き、将来の希望や漠然とした不安などの相談を受け一緒に考えます。

福祉制度だけではなく、身近な地域の人たちの協力を得ながら、地域全体で障害のある人を見守ります。

金沢区障害者後見の支援室 帆海(ほなみ)

住所:金沢区能見台通21-23 アイカビル1階

電話:788-2114 FAX:788-2160

● 地域における権利擁護の推進

区役所・区社会福祉協議会

認知症高齢者や一人暮らし高齢者の増加に伴い、本人に代わって介護サービスの利用契約などの後見活動を行う成年後見制度の必要性は一層高まっています。

横浜市では、認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分な方の生活を支援する身近な存在として、市民が後見活動を担う「市民後見人」を養成しています。

● 生活困窮者自立支援制度

区役所

「仕事をやめて家賃が払えない」、「なかなか仕事が見つからない」、「借金や家計のやりくりで困っている」など、様々な経済的事情により生活にお困りの方の相談に応じ、どのような解決方法があるのかを一緒に考え、きめ細やかな支援により、サポートを行います。

一人ひとりのお困りの状況を整理し、解決に向けた目標を立て、専門の相談員による家計相談や、ハローワークと連携した就労支援などを通じて、生活の立て直しのアドバイスを行います。

● 生活福祉資金貸付制度

区社会福祉協議会

失業などにより日常生活全般に困難を抱えた世帯の生活の立て直しのために、生活費及び、緊急・一時的に必要な経費、修学に必要な経費などの貸付事業を行っています。区役所で実施している生活困窮者自立支援制度の窓口とも連携を図ることで継続的な相談支援を行います。

● 食の支援

区社会福祉協議会

経済的理由から緊急に食品が必要な方が、安定した生活や自立した生活に戻るための一助として食料支援団体(セカンドハーベスト・ジャパン)との協働により食料支援が始まっています。支援食料は、食品メーカー等からの協力により賞味期限が近い・規格外・余剰農作物等十分に食べられる食品です。今後は、ご家庭で余剰となっている食品を持ち寄り、生活に困っている人にお渡しするフードドライブ〈food(食品)drive(運動)〉へと取組を広げていきます。

推進目標 1 – (2) に関連する取組や制度

● 金沢区移動情報センター

区社会福祉協議会

移動に支援が必要な障害のある人及びそのご家族からの相談を受ける窓口です。外出の目的や行先など、ニーズに沿った情報の提供と支援、外出に関するボランティアの育成等、ボランティア全般のコーディネートを担当するボランティアセンターと協働して行っています。

● 身近な地域のつながりによる支えあいの推進

区社会福祉協議会

「支援する人」「支援される人」の区別なく、誰もが住み慣れた地域で孤立せずに居場所や役割を持って暮らし続けられる地域づくりを進めるため、地域の皆さんと地域の特徴や課題について共有し、必要な取組を考える研修会(住民支え合いマップ研修、地域福祉活動推進者養成研修等)を開催します。研修会で把握・共有した地域課題の解決に向けた取組の支援を行います。

● 住み慣れた地域でいつまでも生活するために

○ 地域ケア会議 区役所・地域ケアプラザ

保健・医療・福祉の専門職や地域の支援者等で構成される会議です。多職種協働や個別事例の検討を通じ、①個別課題解決、②ネットワーク構築、③地域課題発見、④地域づくり・資源開発、⑤政策形成の5つの機能を有しています。

地域包括支援センターが行う地域レベルの会議で、個別ケースの支援内容を通じた地域課題の解決に向けた協議をし、さらにそこから抽出された共通課題等を区及び市レベルの会議で協議します。これらの重層的な構成により、高齢者支援の充実とそれを支える地域づくり・資源開発や政策形成につなげていきます。

○ 金沢区地域自立支援協議会 区役所・金沢地域活動ホームりんごの森

区内の医療・福祉関係者、障害当事者団体の代表者及び家族、学校関係者などで構成される会議です。

障害児・者及びその家族が地域で自立した生活を送ることができる社会の実現を目指して、関係機関どうしの情報交換や支援策の検討を行っています。

○ 災害ボランティアセンター設置準備 区社会福祉協議会

区役所・区社会福祉協議会・災害ボランティアネットワークの3者で締結した「災害ボランティアセンターの設置・運営に係る協定」に基づき、災害時にボランティアセンターの運営ができるよう準備を進めます。また、地域に災害ボランティアセンター機能や場所を周知するとともに、発災時に災害ボランティアセンターでボランティアコーディネートを行う人材を育成していきます。

多くの人が毎日を健康に過ごしたいと望んでいます。病気の予防や重症化を防ぎ、いつまでも自分らしい生活を送るためには、自分の身体の状態を知り、状況に応じて生活習慣を改善していくことが重要と言われています。

また、運動や食事などの生活習慣の改善に加えて、地域との交流や様々な活動への参加など「つながり」をつくるのが心身の健康に効果があることも分かってきました。

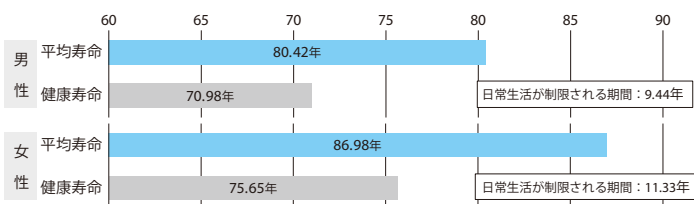
そこで、地域ぐるみで健康づくりに取り組むことでいきいきとしたまちを目指します。

背景① 目指せ 健康寿命日本一

平均寿命とは「生まれてから亡くなるまでの期間」、健康寿命とは「平均寿命のうち健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことを言いますが、平均寿命と健康寿命の間には約10年の差があります(図11)。

いつまでもいきいきと自分らしい生活を続けるためには健康寿命の延伸は欠かせない要素であり、乳幼児期から高齢期まで継続して生活習慣の改善を行うことが重要です。

図11 横浜市の平均寿命と健康寿命



生活習慣の見直しで
健康寿命を伸ばそう

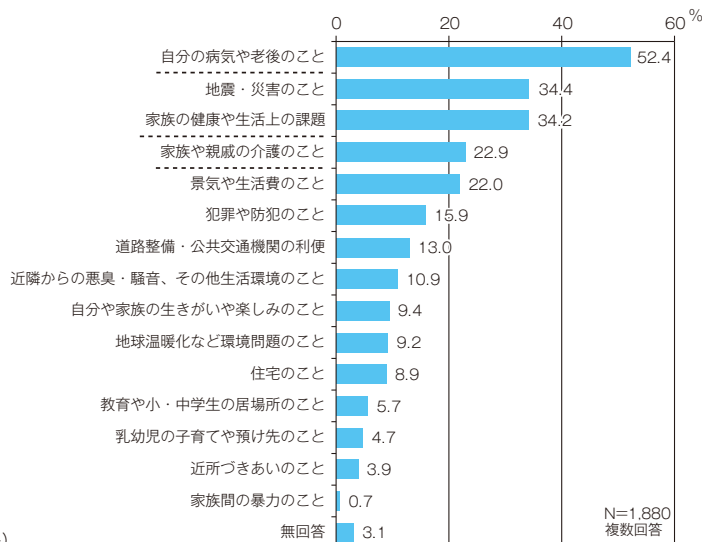


出典) 第2期健康横浜21 (平成22年国民生活基礎調査(横浜市分)を基礎データとして算出)

背景② 生活習慣の改善への意識向上

一般区民を対象とした調査では、暮らしの中で、最近気になっていることや困っていることの上に「自分の病気や老後のこと」「家族の健康や生活上の課題」が挙げられました(図12)。

図12 暮らしの中で、最近気になっていることや困っていること



出典) 平成26年度金沢区暮らしや地域に関する意識調査(一般区民)

次ページへ

しかし、健康に関する市民意識調査では自分自身の生活習慣について「改善が必要だと思う」と回答した人が全体の74.7%であるのに対し、このうち「既に改善に取り組んでいる」人は全体の26.5%に留まりました。また、若い世代ほど「改善が必要だと思わない」「関心がない」と回答する人の割合が高い傾向にありました(図13・14)。

図13 自分自身の生活習慣の改善について

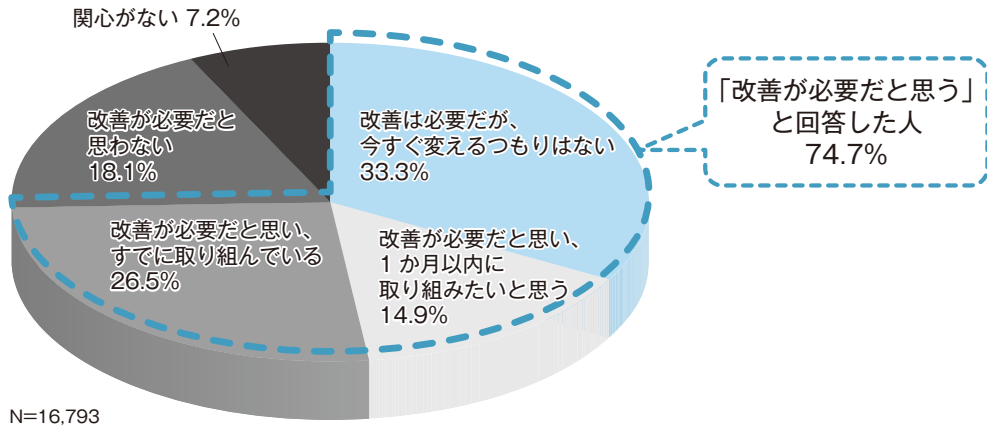
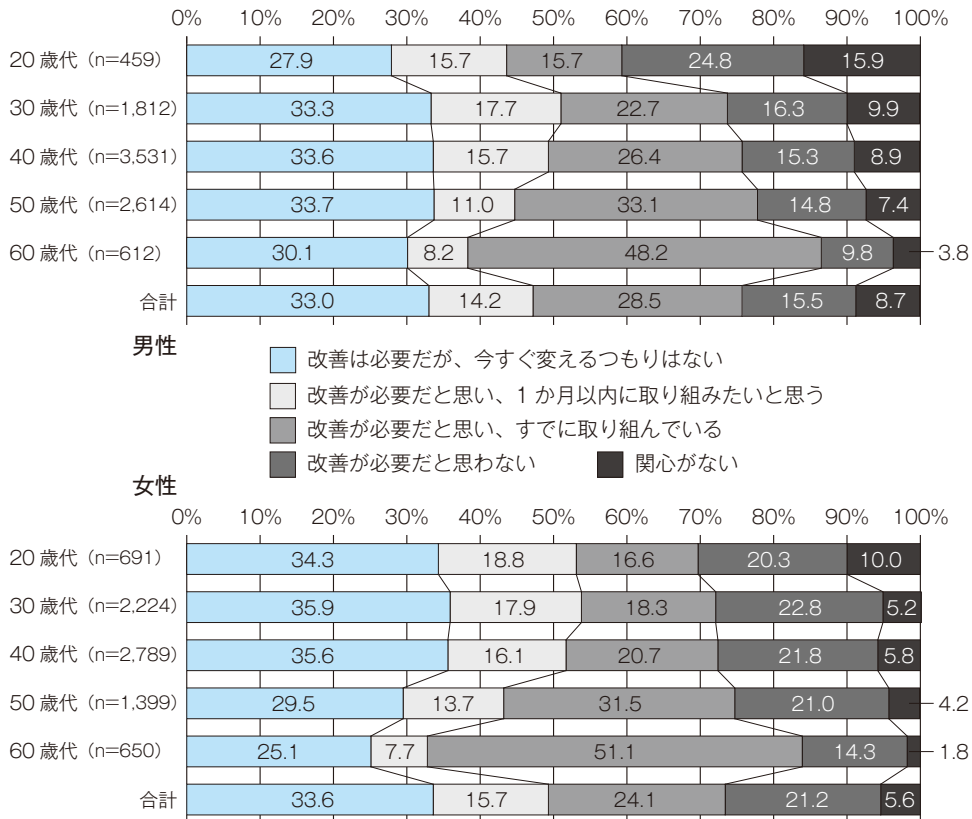


図14 自分自身の生活習慣の改善について(男女別・年代別)



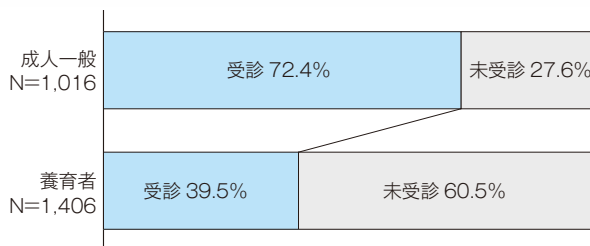
出典)平成25年度 健康に関する市民意識調査(横浜市健康福祉局)

背景③ 健康診断受診率の向上

一般の市民を対象とした調査では20歳から69歳の方のうち過去1年間に健康診断を受診した人は72.4%でしたが、金沢区の養育者を対象とした調査では、0歳から2歳の子を持つ養育者の受診率は39.5%でした(図15)。

出典)平成25年度 健康に関する市民意識調査(横浜市健康福祉局)
平成26年度 金沢区子育て実態調査 より作成

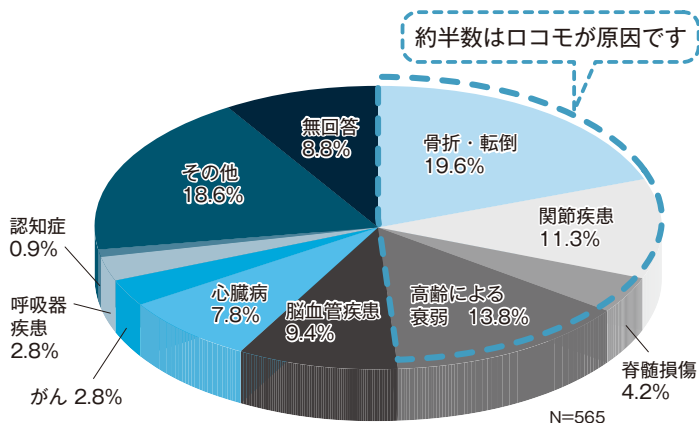
図15 過去1年間の健康診断受診状況



背景④ 介護予防の推進

介護(要支援)が必要になった理由の約半数は「ロコモティブシンドローム(運動器症候群、通称:ロコモ)」です(図16)。ロコモとは、加齢や病気などにより移動能力が低下した状態を言いますが、足腰を鍛える運動や体操の継続、バランスのとれた食事等の日々の生活の改善により予防することができます。

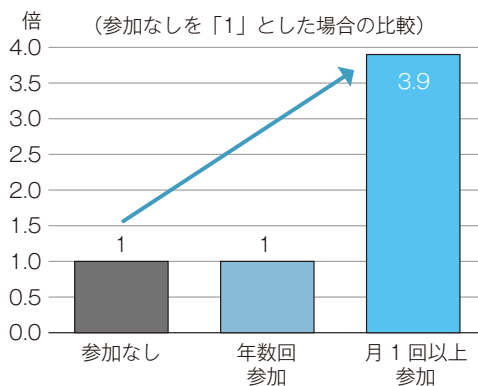
図16 介護(要支援)が必要になった理由



出典)平成25年度横浜市高齢者実態調査(横浜市健康福祉局)

また、運動やバランスのとれた食事などに加えて、地域との交流や様々な活動への参加など積極的に「つながり」をつくるのが心身の健康に効果があることも分かってきました(図17)。

図17 高齢者の社会活動等への参加による4年後の生活機能維持に関する調査



出典)東京都健康長寿医療センター研究所
「つながりde健康づくり」リーフレット
(横浜市健康福祉局)から引用

月1回以上社会活動に参加していると、元気な暮らしを続けられる人が4倍近くにもなるんだね!





推進目標

2

みんなで取り組む楽しい活動をととした健康づくり

目指す姿と取組の方向性

地域とのつながりの中で健康的な生活を送る人が増えることで、一人ひとりがいつまでも自分らしく健やかに暮らせる地域を目指します。そのために、身近な地域の資源をいかしたウォーキングや健康講座、スポーツイベント、趣味、地域貢献等の様々な活動を通じた健康づくりを促進していきます。

また、子育て中の人や働いている人でも気軽にイベントや活動に参加できるよう情報を発信し、関係機関や団体、民間企業と連携して健康づくりを推進します。特に、介護予防や認知症予防の取組を重点的に進め、健康寿命の延伸を目指します。



目標達成に向けた取組

①情報発信・啓発

- 自身の健康を振り返り、関心を高められるような啓発活動を推進します。
- 関係機関や企業等とも連携し、主体的に健康につながる行動を起こすことができるよう情報を発信します。

②活動の機会等の促進

- こどもから大人、高齢者まで多世代が参加できるウォーキングなどの健康づくりイベントを開催します。
- 身近な場所で、仲間と一緒に主体的に健康づくりに取り組む機会を拡充します。
- 多様な主体の参画により、地域の支えあいの中での介護予防の取組を推進します。

③健康づくり活動を支える環境整備

- 健康づくり活動を地域で実践する人材を育成、支援します。
- 健康を増進するために関係機関等の連携を促進し、ソフト面・ハード面に関する環境づくりを進めます。



推進目標2に関連する取組や制度

● ウォーキングを中心とした健康づくりの取組み

区役所

ウォーキングは身近な場所で気軽に取り組むことのできる運動です。区内の企業・大学・健康づくりの推進団体等と協働して、金沢区の歴史・自然を楽しみながらウォーキングを行うイベントを開催しています。その他、ウォーキングのスキルアップ講座の開催、区内のつながりステーションでのウォーキングについての情報を発信するほか、公園を活用した健康づくりとして、案内板の設置や路面へのコース・距離標示などの環境整備を行っています。



健康ウォーキングの様子



距離表示のイメージ

● 金沢区保健活動推進員の活動

区役所

保健活動推進員は、区役所と協力しながら、地域に暮らす人の健康づくりを応援しています。健康づくり活動(健康チェック・体力測定会、ロコモ予防の教室やウォーキングなど)の企画と実施、健診受診の啓発などに取組んでいます。

また、介護予防、高齢者支援、子育て支援など、区内14地区それぞれ地域の実情に合わせた活動を行い、地域の健康づくりを推進しています。



いきいきフェスタでのロコモ度チェック

● 金沢区食生活等改善推進員(愛称:ヘルスマイト)の活動

区役所

こどもから高齢者を対象にした食育や食の安全等をテーマにしたボランティア活動(健康講座、料理教室など)を行っています。小学生を対象に「朝食を食べる」ことをテーマとした講座と調理実習、男性を対象に「食の自立」をテーマとした料理教室などを開催しています。

またウォーキングの活動では、月1回自然散策や名所旧跡巡りなどを行い、楽しみながら健康づくりを進めています。



ヘルスマイトの活動

● 元気づくりステーション

区役所・地域ケアプラザ

高齢者が、地域の中でつながりながら、健康で生きがいのある活動的な生活を送ることができるよう、歩いて行ける身近な場所で主体的・継続的に健康づくりや介護予防に取り組むグループ活動です。金沢区には12か所(平成27年12月時点)あり、体操・ウォーキング・認知症予防ゲームなどの様々な活動を行っています。



元気づくりステーション

● ボランティアから健康づくり

区社会福祉協議会・地域ケアプラザ

地域との「つながり」は心身の健康にも効果があると言われています。ボランティア活動も地域とつながる第一歩となります。これまでの経験・専門性をいかした活動、空いている時間を有効にいかせる活動、仲間づくりにつながる活動、人との会話や身体を動かす活動など、活動の内容は様々です。



重点テーマ III

『得意』や『経験』をいかして わたしもあなたも地域も元気に

地域で活動している人の悩みや困りごとに、メンバーの高齢化や担い手不足が挙げられます。しかし、障害のある人も含めて、今後担い手として活動に参加したいと考えている人や、何らかの形で社会貢献したいと考えている人が多くいることが分かっています。

また、活動に参加するためには「参加しやすい雰囲気」や「きっかけの提供」などが必要という意見が多く聞かれます。

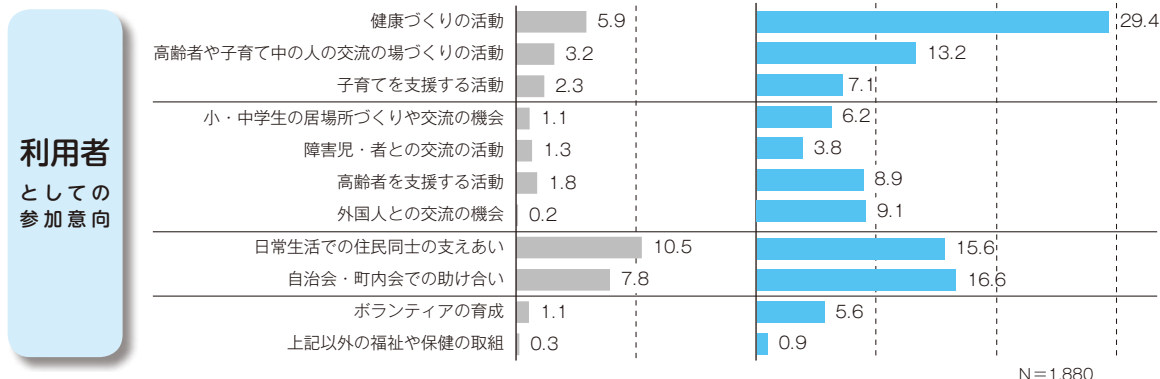
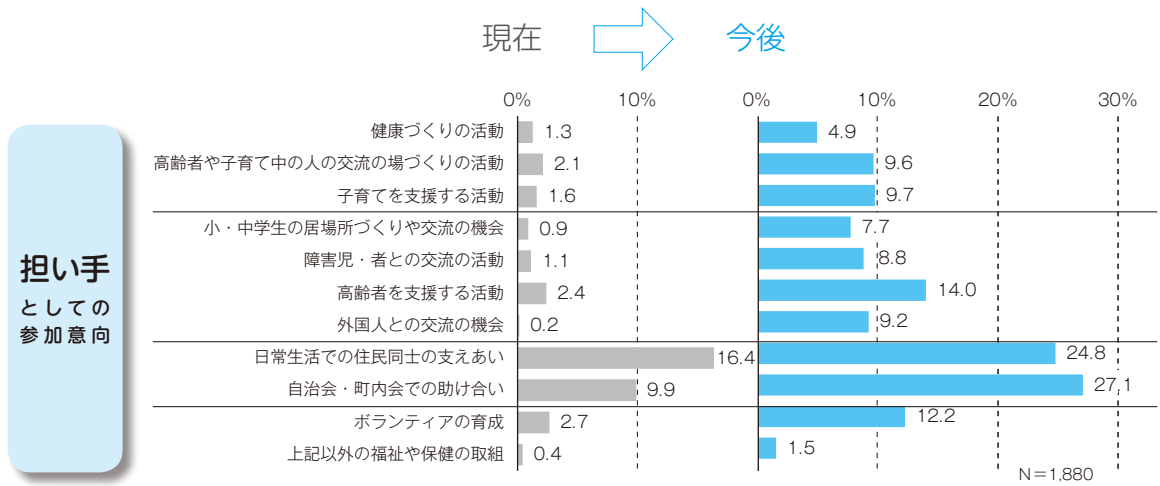
そこで、年齢やライフステージに関わらず、誰もができることに取り組んで活躍できるようにすることで活性化された地域を目指します。

背景① 地域活動への参加意向がある人をつないで、担い手不足の解消を

福祉保健に関する活動を行ったり、支援したりしている団体を対象とした調査では、「活動を進めていく上での悩みや困りごと」について「メンバーの高齢化」「担い手不足」という回答が7割を上回りました。

一方、一般区民を対象とした調査では、現在活動に参加している人の割合に対して、今後参加したいと思っている人の割合が高いことが分かりました(図18)。

図18 地域の福祉や保健の取組への参加状況と今後の参加意向



出典)平成26年度金沢区暮らしや地域に関する意識調査

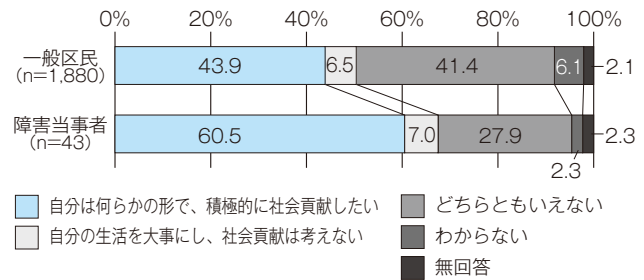
背景② 誰もが気軽に楽しく活動し、やりがいのある生活を

一般区民及び障害児・者とその家族を対象とした調査では、一般区民の約4割、障害当事者の約6割が「何らかの形で、積極的に社会貢献したい」と回答しました(図19)。

また平成26年度金沢区子育て実態調査からも、「趣味があり続けている人」は続けていない人と比べて育児が楽しくできているという結果が出ており、趣味を通じて活動することが育児を楽しむひとつの要素になっています(図20)。

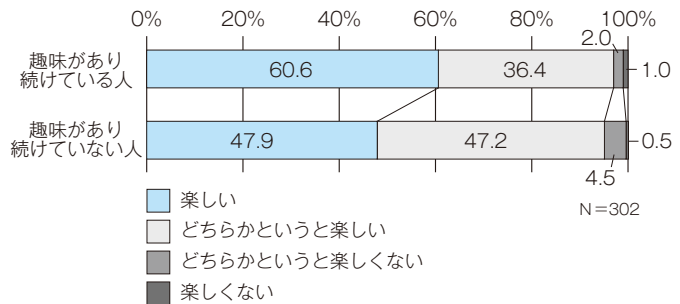


図19 社会貢献について



出典)平成26年度金沢区暮らしや地域に関する意識調査

図20 趣味の継続と育児の楽しさについて



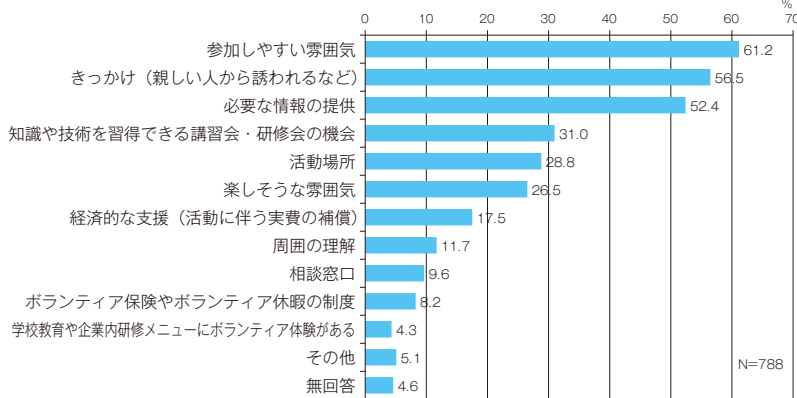
出典)平成26年度金沢区子育て実態調査

背景③ 活動参加へのきっかけ・雰囲気づくり

一般区民を対象とした調査では「今後、担い手として参加するために必要なこと」として、「参加しやすい雰囲気」「きっかけ(親しい人から誘われるなど)」「必要な情報の提供」と回答した人が半数を上回っています(図21)。

また、地区推進連絡会でも地域活動の参加について「きっかけの提供が必要」「知りあいから声をかけてもらった方が良い」などの意見が出ています。

図21 担い手として参加するために必要なこと



出典)平成26年度金沢区暮らしや地域に関する意識調査

【地区推進連絡会での 主な意見(抜粋)】

- きっかけの提供が必要
- 年齢問わず共有できる場所(夏祭りなど)と参加しやすい雰囲気づくりが必要
- 知りあいから声をかけてもらった方が良い
- 若いお母さんたちを巻き込んで活動していきたい



推進目標

3

誰もが活躍できる場やきっかけを通じた いきいきと暮らせる地域づくり

目指す姿と取組の方向性

多くの住民が地域活動やイベントへの参加を通じて社会とのつながりを感じ、それぞれの人ができることに取り組んで活躍することで活性化された地域を目指します。こどもの頃から多様な経験ができる機会を提供したり、自分の得意なことや経験をいかした活動に参加できるきっかけを増やすことで、年齢やライフステージ、障害の有無に関わらず活動できるよう支援します。

また、これにより地域活動の担い手となる人材の発掘、育成を行います。

目標達成に向けた取組

①啓発・きっかけづくり

- 趣味や得意なことをとおして、楽しみながら地域活動への参加につながるきっかけづくりを進めます。
- 福祉教育等をおしてボランティア活動への理解を深めるきっかけをつくります。

②活躍の場をコーディネート

- 地域の人を持っている力を引き出し、発揮できるような場や仕組みをつくります。
- 年齢やライフステージ、障害の有無に関わらず誰もが発言をしたり、活動できる場をつくります。
- 教育機関や企業、地域の関係機関と連携して幅広い活躍の場・仕組みづくりを進めます。

③活動への支援

- 育児サークルや健康づくりをはじめとして、様々な地域活動に取り組む団体等を支援します。
- 活動者を対象に交流会や研修会を開催し、参加者どうしが学びあい協力することで活動が活性化されるよう支援します。

少しずつでも
自分にできることから始めれば
いいんだね。



推進目標3に関連する取組や制度

● 金沢区地域づくり大学校

区役所・区社会福祉協議会

地域課題に取り組んでいる自治会町内会の事例見学や地域づくりの手順についての講座、グループワークをとおして、区民と区職員が学びあい、地域のさまざまな課題を協力しあいながら解決していく「自治の力」を身に付けることを目的に実施しています。



● ボランティアの発掘・育成

○ 地域デビュー応援講座 区役所

「活動に参加したいが、きっかけがない」と考えている区民にむけて、地域で行われている活動の体験や、仲間づくりをとおして、活動に参加するきっかけを作ることを目的とした講座を実施しています。



○ ボランティアセンター 区社会福祉協議会

ボランティア活動を行いたい人と手助けをして欲しい人をコーディネートし、地域の支えあい活動を支援します。ボランティアに関する各種講座(入門講座等)やボランティア活動に関する情報を発信・紹介するとともに、ボランティア活動者やグループを対象とした学びあいや情報交換の機会として交流会や研修会を開催しています。

○ 多文化共生推進事業[外国につながる子どもの日本語学習支援] 区役所

外国につながる子どものための日本語教室「かもめ教室」を運営します。支援活動に参加することで在住外国人との交流の機会となり、多文化共生に関するこれまでの経験と知識をいかせる場となっています。

● キラキラ金沢っ子ファミリーフェスタ

金沢区地域子育て支援拠点 とことこ

金沢区のママ達を中心に、企画運営から、出展まで行うイベント「キラキラ金沢っ子ファミリーフェスタ」を開催しています。

親子が育っていく過程において、養育者自身が元気で子育てを楽しめることが重要との認識にたち、子育て家庭を笑顔にしたいという想いから、得意なことや趣味をいかして、年に1回ステージ発表や製作体験、販売等を行っています。



推進目標3 に関連する取組や制度

● 地域におけるシニアパワー発揮推進事業

区役所・地域ケアプラザ

高齢者が、様々な地域活動に参加し、地域とのつながりを持つ中で健康を維持できるよう、従来の地域活動だけではない新たな「場」や「機会」を創出し、高齢者の健康維持増進・生活の自立促進を図る地域事業を実施しています。



● キャンパスタウン金沢推進事業[大学の活力を生かしたまちづくり]

区役所

関東学院大学及び横浜市立大学との連携を強化することで「大学の知恵」「大学生の行動力」「大学の充実した施設」を生かし、活力に満ちたまちづくりを進めます。

子育て・福祉等分野での連携として、「市立保育園における学生と園児との交流」、「地域ケアプラザ利用者と大学生との交流」、「横浜市立大学における障害者福祉施設の製品販売等」が行われています。さらに、大学生が行う地域活動等の事業への助成を行っています。



● 環境未来都市 横浜 ～かなざわ八携協定～

区役所

金沢区では、横浜グリーンバレー構想など温暖化対策を実践していますが、この取組に加え、少子高齢化の進む金沢区の地域活性化策を協力して実践するため、2014年度に鉄道事業者、企業、大学、商工業など八者による協定を締結しました。この協定を契機として、連携協力の輪を広げながら、豊かな自然を次世代に引き継ぐとともに、金沢のまちをさらに盛り上げ、その魅力を広く内外に発信していきます。

